

法政大学大原社会問題研究所

# 所 報

(2001.1.1 ~ 1.31)

## 刊行物

『大原社会問題研究所雑誌(復刻版)』11~12(2巻7号~3巻8号)

『大原社会問題研究所雑誌』507号(2001年2月)

## 図書受入

	和 書	洋 書	計
購 入	124	11	135
受 贈	149	44	193
合 計	273	55	328

## 閲覧サービス

### 閲覧

開館日数 20日  
 閲覧人員 17名  
 貸出図書 32冊

### コピーサービス

学 外 13件 584枚  
 学 内 8件 510枚

## 日 誌

12日 学務打ち合わせ

17日 運営委員会

### 議題 諸報告

次期所長人事について  
 兼任研究員(運営委員)の選出について  
 研究員総会について  
 その他

20日 加齢過程における福祉研究会

報告者: 黒田洋一郎氏(東京都神経科学研究所)

テーマ: 「脳と痴呆の研究から」

24日 研究会会議

公開月例研究会

報告者 梅田俊英

テーマ: 『『ポスターの社会史』(仮題)執筆者のために(中間報告)』

30日 事務会議

31日 『日本労働年鑑』第2回編集委員会

————— 研究所だより —————

## 橋浦時雄資料

当研究所では、元日本社会党委員長の鈴木茂三郎旧蔵資料を、子息の鈴木徹三氏(法政大学名誉教授・当研究所名誉研究員)より、順次寄贈を受けている。現在、仮目録を作成中である(この文庫の概要については、雑誌494号・495号を参照されたい)。

その受贈資料のなかに、2001年1月1日以降の公開を条件とされた『橋浦時雄日記』のコピー資料がある。

橋浦時雄(1891-1969)は、堺利彦の「売文社」に加わるなど社会主義者と親交し、『日本労働新聞』の創刊に尽力し、消費組合運動にも加わった。第1次共産党に参加して処罰され、人民戦線事件でも入獄した。

『日記』は、おもに当時の記録と戦後の回想によって構成され、No.10(1908)-No.19(1918)については、すでに抄録の形で出版されている(山本博雄、佐藤清賢編『冬の時代から 橋浦時雄日記 第1巻1908-1918』雁思社、1983年 662ページ)。それによれば、『日記』の原本は、時雄の墓所でもある愛知県豊橋市の乗運寺の「橋浦時雄文庫」に全巻が保管されているとのことである。

このたび公開される資料は、鈴木徹三氏がコピーした『日記』No.1(1905)-No.36(1968)の全部35袋(B4版)のほか、同『日記』の一部6袋、橋浦時雄宛の書簡類の4袋である。

閲覧カウンターで所定の手続きをされれば、どなたでも閲覧できます。

なお、論文などにおいて、長文の引用をされる場合は、原本所蔵者(乗運寺住職の佐藤清賢氏)にご一報ください。(松尾純子)

大原社会問題研究所雑誌 No.510(2001年5月号)

2001年5月25日発行

定価 1,000円(本体952円)、年間購読料12,000円

編集(兼)発行人 法政大学大原社会問題研究所

所長 早川征一郎

〒194-0298 東京都町田市相原町 4342

電話 042(783)2307

## 投稿募集

本誌は社会・労働問題に対する論文、調査報告を募集しております。下記の規定に基づいてご投稿下さい。

### 投稿規定

1. 投稿原稿は2部とし、ワープロ作成による未発表のものに限ります。
2. 原稿の分量は、原則として20,000字以内（図表を含む）とします。
3. 原稿には、審査に資するため、600字以内の要約を添付してください。
4. 原稿の採否は、本誌編集委員会が指定する審査員の査読を経て、本誌編集委員会が決定します。
5. 初めて投稿される方は、研究歴など簡単な履歴を添付してください。
6. 掲載原稿には、所定の原稿料をお支払いいたします。

#### 【原稿送付先】

〒197-0298 東京都町田市相原4324

法政大学大原社会問題研究所

『大原社会問題研究所雑誌』編集委員会

### 論文執筆要領

論文を執筆される場合には、下記の点に留意してください。

執筆者校正の際には、原則として原稿を返却しませんので、原稿のコピーを確保しておいて下さい。

原稿をプリントアウトする場合には、ある程度の行間を取って下さい。

#### 1 一般的な原則

横書きとする。

タイトル、氏名の次に簡単な目次をつける。

原稿の最後に、執筆者名（ひらがな）、肩書き（所属、職名）を記入する。肩書きは大学の場合には、学部、研究所等の名称まで表記する。

注をつける場合には、各章ごとに分割せず、最後に一括し、通し番号をつける。

図、地図などは、可能な限りトレース済のものを提出する。

#### 2 注記の方式

日本語の図書・論文の場合

A. 日本語で書かれた図書については、著者名、書名（書名は『』で囲む）、出版社名、発行年（原則として西暦）の順に書く。ページ数を記入する場合には、発行年の次に記入する。

B. 著者が2人の場合には、両者の姓名を書く。3人以上の場合には、「他」の方式も可とする。

C. 論文については、執筆者名、論文名（「」で囲む）、掲載雑誌名（『』で囲む）、巻号、発行年月日の順に書く。

D. 注の最後は、かならず「。」で止める。

欧文の図書・論文の場合

A. 欧文の図書については、著者名、書名、発行地（あるいは出版社名）、出版年を書く。書名は、イタリックにするので、下線を引くなどして書名の部分を他の部分と区別する。

B. 論文の掲載雑誌名は、イタリックとする。

C. 再出を示す「ibid.」「op. cit.」などもイタリックにする。

D. 注の最後は、かならず「。」で止める。

以上